



県民活動
推進委員

佐原いづみ 岩国市

平成24年、発達障害児の就労支援のため、焼き菓子の製造販売を中心に、ビル清掃等を行っている「NPO法人エルマーの会」をはじめ、岩国市内の6団体が企業と協働事業を行いました。

共同募金会の企画となるこの事業は、市民団体と企業とが手を組み、社会貢献につなげるという全国でも珍しい活動です。各市民団体がデザインし、企業が制作したボールペンを市内文房具店で販売し、売上金の一部が市民団体に寄付されました。これからも岩国の未来をつなぐ活動に取り組みたいです。



県民活動
推進委員

安田和幸 上関町

上関は江戸時代、朝鮮通信使が立ち寄った場所であり、数々の文化財が眠っています。これらを発掘・保存し、地域に役立てたいとの思いから、平成元年に郷土史愛好家が集い、「かみのせき郷土史学習にんじゃ隊」が発足しました。

県外者への観光PRや案内、史跡の確認調査等「にんじゃ」の如き目立ため活動が中心で、上関の観光案内人養成講座にも協力しています。

今、朝鮮通信使を世界記憶遺産登録への動きもある中、地域の一員としてその一助となるよう活動していきたいです。

キラリ
輝く
地域あんでな

パートナーの呼び方…「夫」。
男女格差のない呼び名は「夫」と「妻」と習い、違和感なく使用していました。結婚の頃にさかのぼるとダーリンなんて呼び方もして、子供が生まれてからはパパ。一方、夫は、「うちのかみさん」と説明していることが多いようです。

文 有吉 明美

当たり前ですが、その場の雰囲気やその時の関係で呼び名が変わることもありますね。「夫」という呼び方はどこかよそよそしい感じを与えてしまう気がするので、「旦那」と言ったり、正しいか
どうかはわからないけれど、「伴侶」と言ったりもします。
様々な方と関わり合い影響し合う社会の中で、日々の生活を支えあってくれているパートナーをどう表現したらよいのでしょうか。
私は、長く対等な表現をしてきたけれど、彼を頼りにしていることを素直に表現してみるのも素敵だなあ、と思っています。空気のように身近にいる存在から、大事にしてゆきたいものです。

Column



パートナー

リビング「ラム

結婚して45年、この間私は一度も名前と呼ばれたことがない。
私自身も、夫を呼ぶのに「ねえ」とか「あんた」、子供が生まれると「オトウサン」で過ごしてきた。夫は用事があるときは「おい」とか「おまえ」で呼び、「オカアサン」もない。
見合い結婚で、出会いから結婚までわずか3カ月、苗字で呼んでいたせいかもしれない。
私は、他人に話すときは「主人」と言っていたのもいつの間にか「おとうさん」になったし、改まったところでは「夫」と言うように

文 藤谷 清美

なった。夫は外で何と言っているのか尋ねると「家内」と言うそうだが、実態は外出が多く「家外」である。
我が家の二人の息子は、嫁たちから今どきらしく、名前で呼び捨てにされている。しかし、長男は照れくさくて嫁を名前で呼べないらしい。
次男は、嫁の両親がお互いに「さん」付けで呼び合っているから「自分たちも歳取ったらそうしたい」という。
それもいいかなと思うけれど、今更？という気もする。このまま「おまえ」「あんた」で終わりそうである。